

1. 5月のNHK杯では個人総合で準優勝し、2大会連続の世界選手権代表入りを決めた。競技の完成度を表すEスコアの最高得点者に送られるエレガント賞も受賞 2. 左から母の友紀子さん、妹の千愛(ちあき)さん、瞳さん、父の好章氏 3. 全日本選手権の段違い平行棒で獲得した金メダルと個人総合の銅メダル 4. オフは週に1回。大学は週に4回ほど通っている 5. 14歳の妹・千愛さんと。NHK杯では姉に次ぐ個人総合3位に入った



はたけだひとみ 2000年9月1日生 155cm セントラルスポーツ所属 6歳から町田市に在住 南第二小学校、南成瀬中学校卒業 早稲田大学スポーツ科学部在学 第58回NHK杯体操(2019年)

個人総合2位、段違い平行棒第1位 カナダ国際個人総合優勝、スロバキア国際個人総合優勝(いずれも2017) 得意な種目は段違い平行棒、得意技はマロニー 1/2

# 特集 2 体操選手 畠田 瞳

## 日本代表としての自覚、 そして自信

東京五輪の出場枠がかかる  
体操の世界選手権が、ドイツで10月に開催される。  
日本女子体操界が世界レベルに近づき  
期待が高まる中  
若手として、注目を集めているのが  
町田市に在住している  
畠田瞳選手、18歳だ。



重ね、目標だった世界選手権の出場切符を2018年に掴むと、心身共に大きく成長を遂げた。演技も細かいところまで神経が行き届くようになったという。

「No.1は目指していません。先輩たちに追いつかなくては、というのが正直な気持ちです。世界選手権の結果が東京オリンピックの出場枠に影響するので、今年が勝負年だと思います」

世界との差も思い知らされた謙虚に自身を俯瞰する彼女だが、初の世界選手権では1種目も失敗できない状況下で抜群の安定感をみせた。「どう戦えばいいのか、分かってきたんです」周りを意識する余裕も生まれてきたという。

「今、自分がこうしてられるのは全て母のおかげ。私の努力は20%、母の力が80%、そんな感じですが。父に指導してもらったことはほとんどなのですが、実は先日のNHK杯で、たった一言でしたがアドバイスしてくれたんです。その通りにやったら着地がびたっと止まって、見ていてくれたんだな、って思いました」

弛まない努力も、偉大な両親を持った奇跡も、全て彼女の實力だ。挑戦する18歳が、大成する日は、そう遠くはないかもしれない。

父は日体大監督の畠田好章氏。アトランタとバルセロナ、2回の五輪に出場したオリンピックアンダ。母の友紀子さんも大学時代、インカレやユニバーシアードで活躍した。そんな2人のDNAを受け継ぐ瞳さんが体操を始めたのは小学校3年生の時だった。決して早くはない。友紀子さんは「始めるなら小3がリミット」とだけ伝え、決して勧めることはしなかった。

体操界の扉を開くきっかけとなったのは小学2年生の終わり、道徳の時間だった。「自分の得意なことをやり続けたら大成する」——心が動いた。走って家に帰ると「体操やりたい!」と母に告げたという。

中学2年生から母の指導を受けるようになる。厳しい指導下で次第に実力をつけ、現在は第一線で活躍するオールラウンダーに成長した。2016年からはナショナルチームの一員となり、国内外の大会や強化合宿など、体操中心の生活を送る。大学生となった今春からは所沢で授業を終えたあと、赤羽のNTC※に向かう日々だ。

「瞳は自分が天才じゃないことも分かっている、しっかり努力するタイプなんです」そう彼女を分析するのは母・友紀子さんだ。努力を

※NTC：ナショナルトレーニングセンターの略称。日本のトップレベル競技者用トレーニング施設